

平成30年度全国学力・学習状況調査  
柏原市における結果の概要について

柏原市教育委員会

## 【全国学力・学習状況調査の概要】

### 1. 調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査対象学年

小学校第6学年児童及び中学校第3学年生徒

### 3. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

● 主として「知識」に関する問題

● 主として「活用」に関する問題

(2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

(3) 児童生徒に対する調査

(4) 学校に対する調査

※調査問題については以下の国立教育政策研究所のホームページ内に掲載されています

<http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

# 平成30年度全国学力・学習状況調査結果(全体1)

## 今年度の結果

小学校

	柏原市 (正答率)	大阪府 (正答率)	全国 (正答率)
国語A	70	68	70.7
国語B	53	52	54.7
算数A	63	63	63.5
算数B	51	51	51.5
理科	59	57	60.3

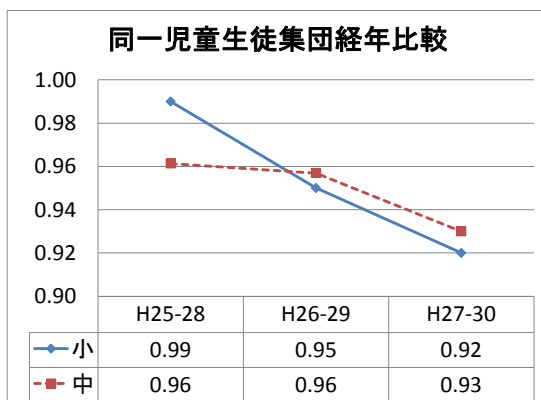
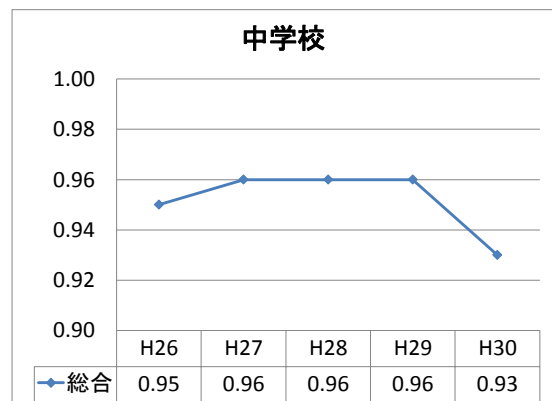
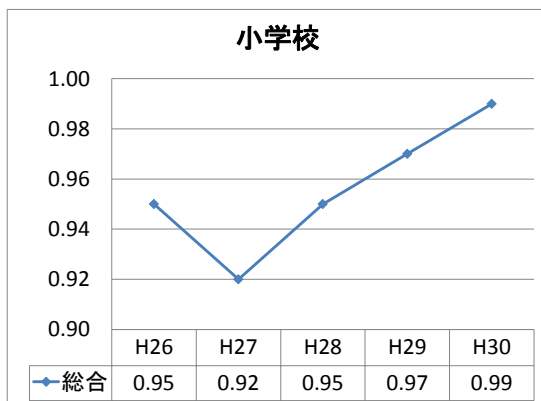
中学校

	柏原市 (正答率)	大阪府 (正答率)	全国 (正答率)
国語A	74	75	76.1
国語B	57	59	61.2
数学A	62	65	66.1
数学B	41	46	46.9
理科	64	64	66.1

小学校は、全調査において、全国平均を下回ったものの、その差は小さくなっており、大阪府平均とは同値若しくは上回る結果となった。中学校は、理科においては、大阪府と同値となったもののその他の教科については、全国平均及び大阪府平均ともに下回る結果となった。

## 5年間推移(全国比)

※全調査を総合した平均正答率を算出し、全国平均正答率を1として表したものの



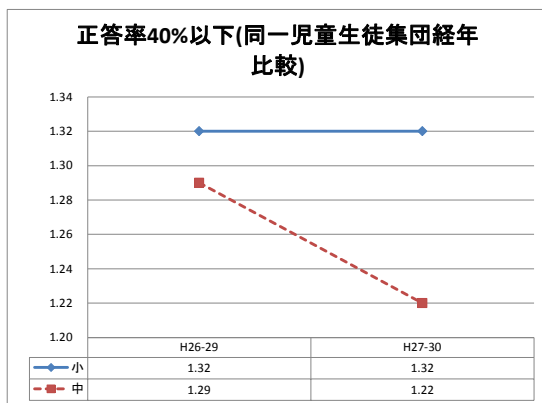
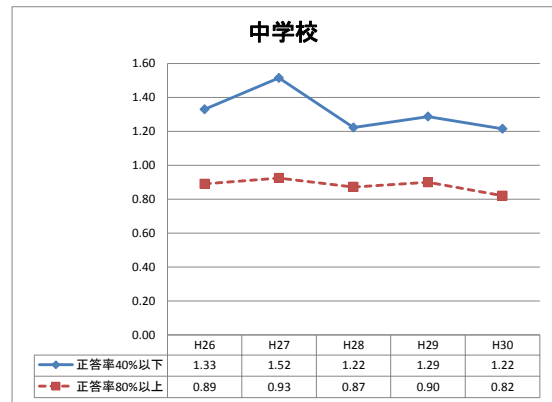
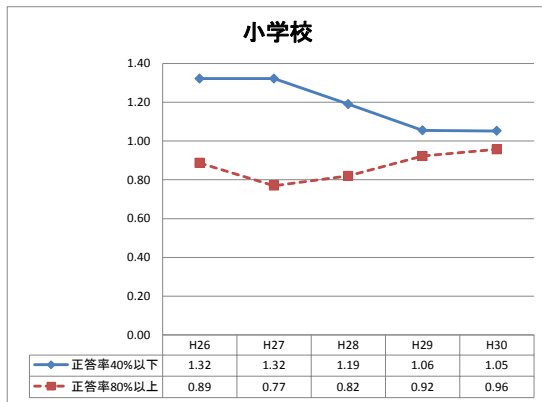
← (左記グラフの見方について)  
H25-H28・・・平成25年度の小学第6学年を青、その児童が中学第3学年になった平成28年度を赤で示している。

小学校は、平成27年度以降、上昇傾向にあり、全国比に近づいている。中学校は、平成27年度からの3年間は横ばい推移していたが、今年度は過去5年間で最も低くなった。しかしながら同一児童生徒集団による経年比較では、平成26年度より中学校入学以降、正答率は向上していることがわかった。

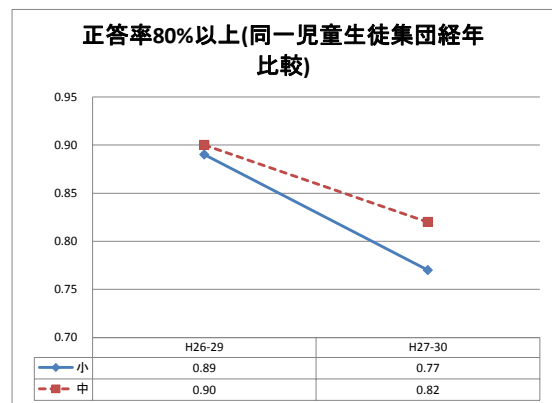
# 平成30年度全国学力・学習状況調査結果(全体2)

## 正答率40%以下・80%以上の児童生徒割合の推移(全国比)

※柏原市内における正答率40%以下(低位層)・80%以上(上位層)の児童生徒の割合を算出し、全国の割合を1として表したものの



※平成25年度は全国の割合が公表されていないため2学年での比較となります。



※平成25年度は全国の割合が公表されていないため2学年での比較となります。

小学校においては、正答率40%以下の割合が年々減少傾向にあり、正答率80%以上の割合が年々上昇傾向にある。中学校においては、正答率40%以下及び正答率80%以上の割合は、この3年大きな変化はなく、正答率40%以下の割合は小学校より大きい。  
同一児童生徒集団での経年比較では、正答率40%以下の割合は中学校入学後、さらに減少し、正答率80%以上の割合は中学入学後に上昇しており、成果が表れている。

# 小学校国語A(知識に関する問題)

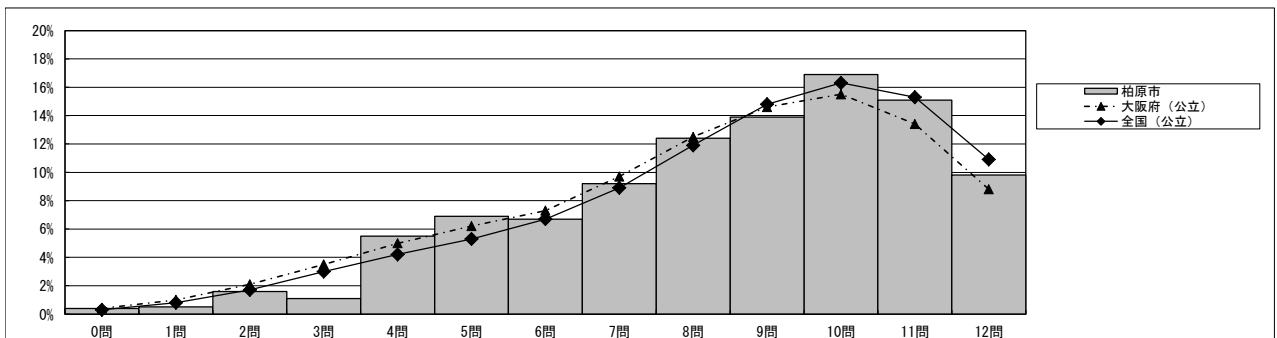
## 問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
	全体	12	70	68	70.7	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	91.1	90.1	90.8	
	書くこと	1	73.0	71.6	73.8	
	読むこと	2	70.5	72.5	74.0	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	67.5	63.8	67.0	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	—	—	—	—	
	話す・聞く能力	1	91.1	90.1	90.8	
	書く能力	1	73.0	71.6	73.8	
	読む能力	2	70.5	72.5	74.0	
	言語についての知識・理解・技能	8	67.5	63.8	67.0	
問題形式	選択式	11	74.1	71.8	73.9	
	短答式	1	30.0	28.0	35.5	
	記述式	—	—	—	—	

- 全国の平均正答率には僅かに及ばなかったものの、大阪府の平均正答率は上回る結果となった。
- 「話すこと・聞くこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、全国を上回った。
- 「書くこと」の分野においては、大阪府を上回る結果となり市全域での取組みの成果が表れている。
- ▼「読むこと」の領域では全国及び大阪府を下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 正答数分布



良好な領域	課題のある領域
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	読むこと

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

全国、大阪府と比較した際に、正答率25%(正答数3問)以下の児童の割合が下回っていて、下位層が少ないことがわかる。大阪府と比較すると、正答率75%(正答数10問)以上の児童の割合が上回り、上位層が多いことがわかる。

小学校国語A問題で課題の見られた設問

1 「材料」の分量を正確に読む。

2 文章全体の内容を表す大きな見出しを読む。

3 「作り方」の中から必要な内容を探しながら読む。

4 絵と文章を結びつけながら読む。

5 「ポイント」に書かれた内容に着目して読む。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

山本さん……

川上さん……

【オムレツのページ】

ふんわりやわらか  
**オムレツ**  
(調理時間約10分)

材 料 (一人分)

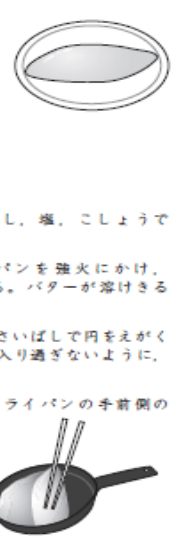
卵……………2個  
バター……………5グラム  
塩……………少々  
こしょう……………少々

作 り 方

- ボウルに卵を割り入れ、溶きほぐし、塩、こしょうで味つけをする。
- 直径18cmほどの小さめのフライパンを強火にかけ、温まったら弱火にしてバターを入れる。バターが溶けきる前に卵を一気に流し入れる。
- フライパンを前後に動かしながら、さいばしで内をえがくように手早く混ぜる。このとき、火が入り過ぎないように、ときどきフライパンを火からおろす。
- 表面が半熟状になったら、フライパンの手前側の卵を向こう側へ折り返す。
- 向こう側の卵を手前に折り返す。
- 卵のどじ目が下になるようにお皿に移したらでき上がり。

ポイント

- 卵をよく溶きほぐすためには泡立て器を使うのがこつ。黄身と白身がよく混ざり、でき上がったときにむらがなくなります。
- フライパンに卵を入れるときにチーズを入れると、チーズオムレツを作ることができます。



3

山本さんと川上さんは、「オムレツのページ」を読み、家でオムレツを作りました。次の「オムレツのページ」と「オムレツを作ったあとの感想」をよく読んで、あとの(問い)に答えましょう。

正答 山本さん…5 川上さん…3

★学習指導にあたって★

「目的に応じて必要な情報を取り出し、それらに関係付けて読む力の育成」

本や文章を読んで、必要な情報を得るためには、自分の目的に応じて適切な段落や部分を選び、情報を取り出しながら読むことが重要である。

本問では、オムレツを作った山本さんと川上さんがもっとうまく作りたいと考え、オムレツの作り方が書かれた文章をもう一度読む場面が設定されている。【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、オムレツの作り方が書かれた文章の中から、目的に応じて中心となる語や文、段落を適切に捉えて読むことが求められる。

正答率については、本市が70.5%、大阪府が72.5%、全国が73.9%であった。

# 小学校国語B(活用に関する問題)

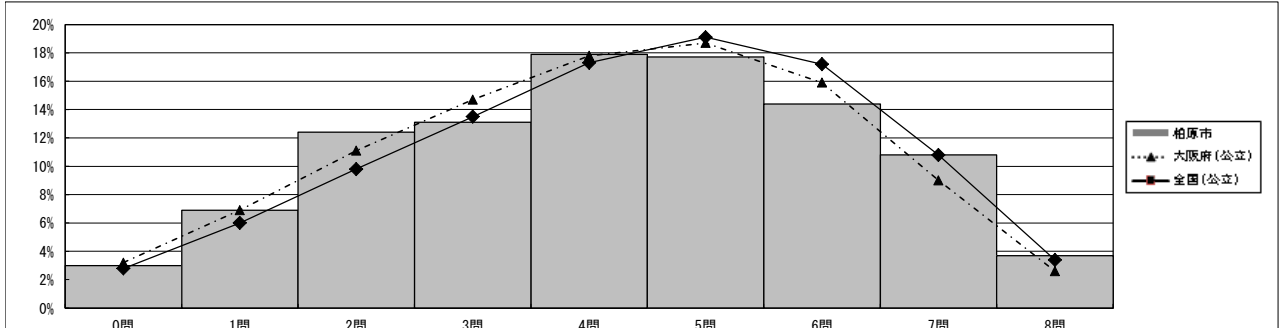
## 問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
	全体	8	53	52	54.7	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	62.9	62.2	64.6	
	書くこと	5	43.8	42.5	45.6	
	読むこと	2	48.7	47.8	50.8	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	-	-	-	-	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	31.9	29.7	33.2	
	話す・聞く能力	3	62.9	62.2	64.6	
	書く能力	5	43.8	42.5	45.6	
	読む能力	2	48.7	47.8	50.8	
	言語についての知識・理解・技能	-	-	-	-	
問題形式	選択式	5	65.5	65.6	67.6	
	短答式	-	-	-	-	
	記述式	3	31.9	29.7	33.2	

○大阪府と比較すると全ての領域で上回る結果となった。  
 ○市全域で重点的に取り組んでいる「書くこと」の分野でも大阪府を1.3%上回るなど取組みの成果が表れている。  
 ▼国語Aと同様、全国と比較すると正答率は下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

## 正答数分布



良好な領域	課題のある領域
該当なし	該当なし

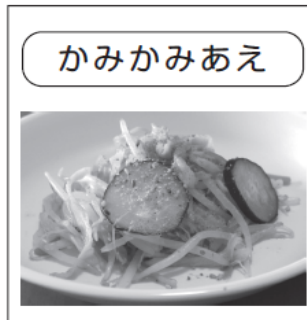
◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

全国・大阪府の正答数分布と比較的近い分布傾向ではあるが、正答数50%(正答数4問)以下の児童の割合が若干高い結果となった。

小学校国語B問題で課題の見られた設問

2

星野さんは、給食の献立の一つである「かみかみあえ」のよさをもっと知ってもらい、各家庭でもメニューの一つに加えてほしいと思っています。次は、星野さんが以前書いた「かみかみあえ」についての【紹介する文章】と、それをもとにしておうちの人のに向けて書いている【おすすめする文章】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



かみかみあえ

【紹介する文章】

「かみかみあえ」は、<sup>\*</sup>するめが入っていて、よくかんで食べるこんだてです。そのため、このような名前がついています。  
 するめのほかにも、にんじんやきゅうり、もやしなどの野菜が入っていて、栄養のバランスやいろどりも考えられています。  
 中華風ドレッシングの味やするめのうまみが野菜にしみこんでいます。

<sup>\*</sup>「するめ」：イカを干した食品

【おすすめする文章】

「かみかみあえ」は、するめが入っているあえ物です。よくかんで食べることから、このような名前がついています。おうちのの人に、この「かみかみあえ」を、サラダやあえ物のメニューとしておすすめします。  
 するめのほかにも、にんじんやきゅうり、もやしなどの野菜が入っていて、栄養のバランスやいろどりも考えられています。中華風ドレッシングの味やするめのうまみが野菜にしみこんでいて、たまらないおいしさです。  
 特におすすめしたい理由は、次の二つです。

一つ目の理由は、「かみかみあえ」が、人気のこんだてであることです。  
 六年一組で以前行ったアンケートでは、サラダやあえ物のうち、好きなこんだての上位三つに入っていました。六年一組では、「ツナマヨサラダ」と同じくらい人気があるこんだてです。きっと、ほかの学級でも好きな人が多いと思います。  
 二つ目の理由は、「かみかみあえ」にむし歯を防ぐ効果があることです。  
 同じサラダやあえ物の中で人気のこんだての一つである「ツナマヨサラダ」と比べると、「かみかみあえ」の方が、よりむし歯を防ぐ効果があります。「かみかみあえ」は、

おいしくて、みんなに人気があり、歯の健康を保つことにもつながる「かみかみあえ」をぜひ、おうちのメニューの一つに加えてください。

二 星野さんは、「かみかみあえ」のむし歯を防ぐ効果に着目して【おすすめする文章】の を書くことにしました。そこで、以前メモしていた【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れてくわしく書くこうとしています。

【保健室の先生の話から分かったこと】

- 食べ物をよくかむと、
- 口のまわりのきんにくを動かすことになり、のうの働きが活発になる。
  - だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので、むし歯になりにくい。
  - まんぷく感が得られ、食べ過ぎにならない。
  - 食べ物本来の味が分かるので、うす味の食事に慣れる。
  - だ液の量が増え、消化がよくなる。

解答例

すしきくだよ  
 。歯れさてく  
 (にいになか  
 6なに出のん  
 2り保てで  
 字につ、。食  
 )くの口だべ  
 いでの液る  
 の、中がこ  
 でむをたん

★学習指導にあたって★

「目的や意図に応じ、文章全体の構成や表現を工夫して、推薦する文章を書く力の育成」

自分が他の人に薦めたいと思う事物を取り上げ、そのよさが多くの人に伝わるように推薦する文章を書くためには、その事物についてよく認識し、確かな理由や根拠を明確にして説明する必要がある。

本問では、給食の献立を取り上げ、各家庭でメニューの一つに加えてもらうために、推薦する文章を書く場面が設定されている。自分の考えを明確に伝えるために文章全体の構成を考えると、推薦する理由を詳しく書くこと、他のものと比較してのよさを書くとよいことを捉えることが求められている。

正答率については、本市が13.3%、大阪府が11.2%、全国が13.5%であった。全国的に正答率が低く、課題があることがわかった。



# 小学校算数A(知識に関する問題)

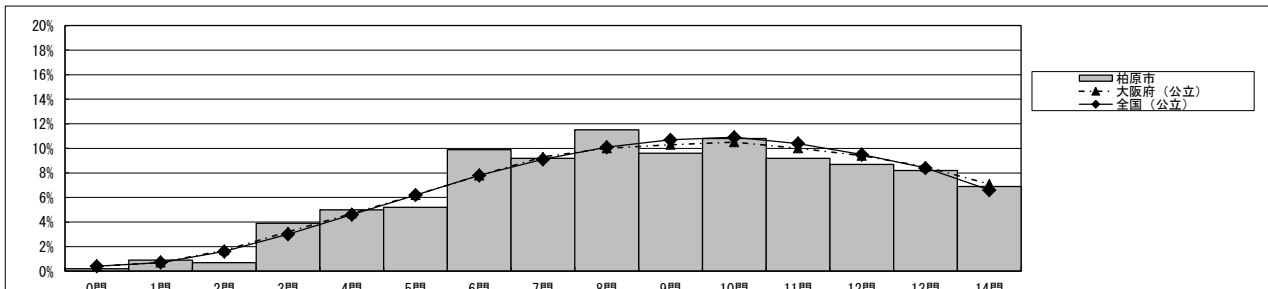
## 問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
	全体	14	63	63	63.5	
学習指導要領の領域	数と計算	5	61.6	62.5	62.3	
	量と測定	4	72.2	72.6	72.7	
	図形	3	56.1	56.4	56.9	
	数量関係	5	58.3	60.3	60.1	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	-	-	-	-	
	数学的な考え方	-	-	-	-	
	数量や図形についての技能	5	61.8	61.8	63.0	
	数量や図形についての知識・理解	9	63.5	64.2	63.8	
問題形式	選択式	10	61.0	61.9	61.8	
	短答式	4	67.6	67.1	67.8	
	記述式	-	-	-	-	

- ▼ 僅差ではあるものの、全ての領域において、全国・大阪府を下回る結果となった。
- ▼ 特に「数量関係」の領域では、大阪府より2%下回る結果となった。
- ▼ 数量や図形についての技能では全国を下回り、課題があることがわかった。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 正答数分布



良好な領域	課題のある領域
該当なし	数量関係

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

全国・大阪府の正答数分布と比較的近い分布傾向ではあるが、上位層、下位層が少なく、中間層が多い結果となった。

小学校算数A問題で課題の見られた設問

7

次の問題に答えましょう。

- (1) 円周率を求める式を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 円周の長さ × 半径の長さ
- 2 円周の長さ × 直径の長さ
- 3 円周の長さ ÷ 直径の長さ
- 4 直径の長さ ÷ 円周の長さ

- (2) 下の文の [ ] にあてはまるものを考えます。

円があります。この円の直径の長さを 2 倍にします。  
このとき、直径の長さを 2 倍にした円の円周の長さは、もとの円の円周の長さの [ ] 倍になります。

- 上の文の [ ] にあてはまるものを、下の ア から エ までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 2
- イ 3.14
- ウ 4
- エ 6.28

正答

(1) 3

(2) ア

★学習指導にあたって★

「円周率の意味や、直径の長さや円周の長さの関係について理解する力の育成」

(1)の円周率を求める問題の正答率は、本市が44.4%、大阪府が41.0%、全国が41.6%と柏原市の正答率は大阪府や全国と比較する低くはなかった。しかし、全国的に4割程度の正答率という低い正答率であり、課題があることがわかった。

(2)の正答率については、本市が50.3%、大阪府が57.1%、全国が55.6%であった。本市での誤答はイが最も多かった(31.3%)。

直径と円周の関係を調べる学習では、どのような大きさの円でも円周の直径に対する割合(円周率)が一定であることを、帰納的に考え見出すことが重要である。

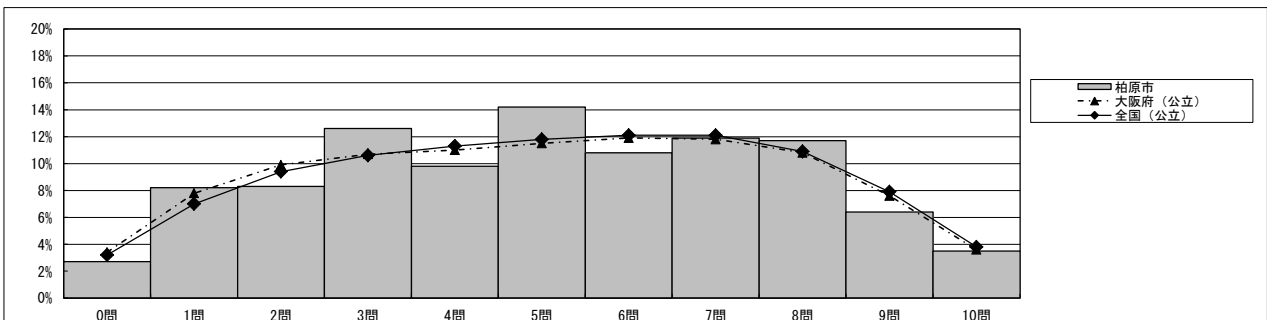
# 小学校算数B(活用に関する問題)

## 問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
	全体	10	51	51	51.5	
学習指導要領の領域	数と計算	6	58.4	57.6	58.4	
	量と測定	4	50.5	51.7	52.4	
	図形	2	55.0	59.6	59.9	
	数量関係	5	45.3	43.8	45.1	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	-	-	-	-	
	数学的な考え方	9	49.0	48.3	49.2	
	数量や図形についての技能	-	-	-	-	
	数量や図形についての知識・理解	1	66.1	71.8	71.7	
問題形式	選択式	3	52.5	53.8	54.0	
	短答式	2	66.4	64.9	66.6	
	記述式	5	43.4	43.0	43.9	

- 算数Aで課題のあった「数量関係」は全国・大阪府ともに上回る結果となった。
  - 「数と計算」の領域では全国と同じ正答率となり大阪府をわずかに上回った。
  - ▼「図形」領域は全国・大阪府ともに4.5%以上下回る結果となった。
  - ▼特に、数量や図形についての知識・理解の点では5%以上下回り、課題があることがわかった。
- ※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 正答数分布



良好な領域	課題のある領域
該当なし	図形

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

全国・大阪府の正答数分布と比較的近い分布傾向ではあるが、正答数50%(正答数5問)以下の児童の割合が若干高い結果となった。

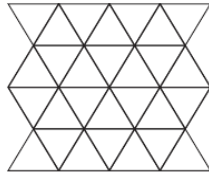
小学校算数B問題で課題の見られた設問

1

身のまわりには、図形の辺どうしがびったりあっていて、すきまも重なりもなくきつめられている模様があります。はるとさんたちは、これらの模様に興味をもちました。

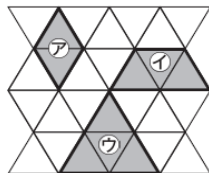
はるとさんたちは、まず、うろこ模様を調べることにしました。

はるとさんたちが調べているうろこ模様は、合同な正三角形でできつめられていました。



うろこ模様

はるとさんたちは、うろこ模様の中に、いくつかの正三角形でできている図形を見つけました。



はると

正三角形2つでできている、ひし形(ア)を見つけました。



ともや

正三角形3つでできている、台形(イ)を見つけました。



かすみ

正三角形4つでできている、正三角形(ウ)を見つけました。  
ほかに、正三角形4つでできている図形を見つけることはできないのかな。

(1) 正三角形4つでできている図形を、うろこ模様の中から見つけます。  
どのような図形を見つけることができますか。  
見つけることができる図形を、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 長方形
- 2 直角三角形
- 3 平行四辺形
- 4 正六角形

正答 3

★学習指導にあたって★

「日常生活の事象を図形の構成要素や性質を基に観察し、図形を判断したり、事柄が成り立つことを論理的に考察し、数学的に表現したりすることができる力の育成」

図形の学習では、図形についての実感的な理解を深めたり、図形の性質を日常生活に生かしたりできることが重要である。

本市での誤答は4が最も多く、図形の組み合わせをイメージする力に課題があることがわかった。正答率については、本市が66.1%、大阪府が71.8%、全国が71.7%であった。

合同な正三角形で敷き詰められた模様の中にほかの図形を見出したり、それらの模様が、ある図形で敷き詰められていることを図形の構成要素や性質を基に論理的に考察し、数学的に表現することが求められている。

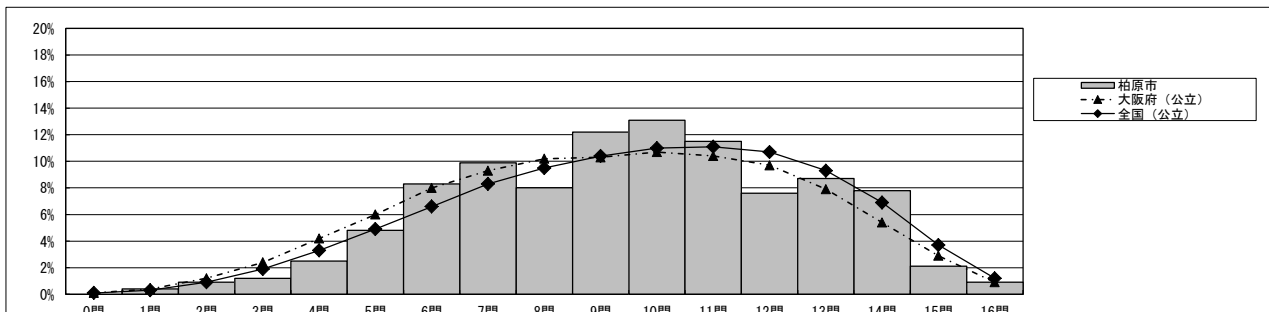
# 小学校理科

## 問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞	
			柏原市	大阪府	全国		
全体		16	59	57	60.3		
枠組み	主として「知識」に関する問題	3	78.0	75.0	78.0		
	主として「活用」に関する問題	13	55.0	53.0	56.2		
学習指導要領の領域	A区分	物質	4	58.5	56.5		59.8
		エネルギー	4	51.4	50.1		53.1
	B区分	生命	4	72.6	70.3		73.6
		地球	6	47.5	46.6		49.5
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	1	80.7	79.8	82.1		
	科学的な思考・表現	12	53.1	51.1	54.1		
	観察・実験の技能	1	70.4	68.4	71.1		
	自然事象についての知識・理解	2	81.5	78.2	81.5		
問題形式	選択式	13	63.3	61.1	63.8		
	短答式	1	78.0	74.2	79.4		
	記述式	2	24.8	25.0	28.0		

○全国の正答率はやや下回ったものの、大阪府の正答率は全ての領域で上回る結果となった。  
 ○本市で推進している「全ての教科で書く場面を意図的に多く取り入れること」の取組みのさらなる推進が必要であると考えられる。  
 ▼記述式で回答する問題では全国より3.2ポイント、大阪府より0.2ポイント下回るという結果となった。  
 ※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 正答数分布



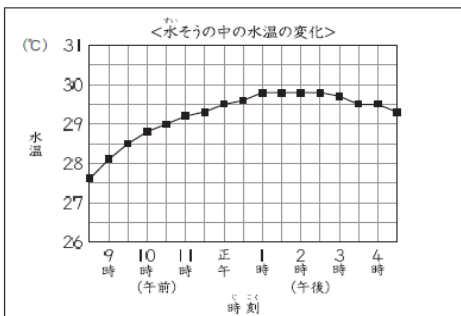
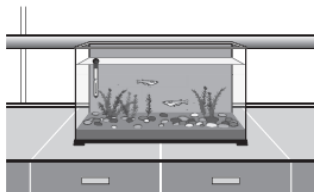
良好な領域	課題のある領域
A区分 物質 B区分 生命	該当なし

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

全国・大阪府の正答数分布と比較的近い分布傾向ではあるが、上位層、下位層が少なく、中間層多い結果となった。

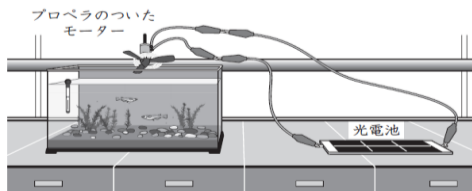
小学校理科問題で課題の見られた設問

ひろしさんたちは、水そうでメダカを飼育することにしました。メダカの飼いや方を本で調べると、水そうの中の水温は、30℃をこえないほうがよいと書いてありました。そこで、水そうの中の水温の変化を調べると、下のグラフのようになりました。



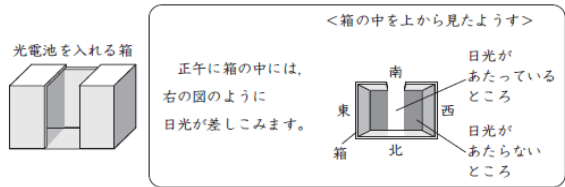
暑い日だと30℃をこえそうなので、午後1時ごろから午後3時ごろの水温を下げるようにしたいな。

ひろしさんたちは、水温を下げるために、光電池で回るプロペラで起こした風を使うことにしました。



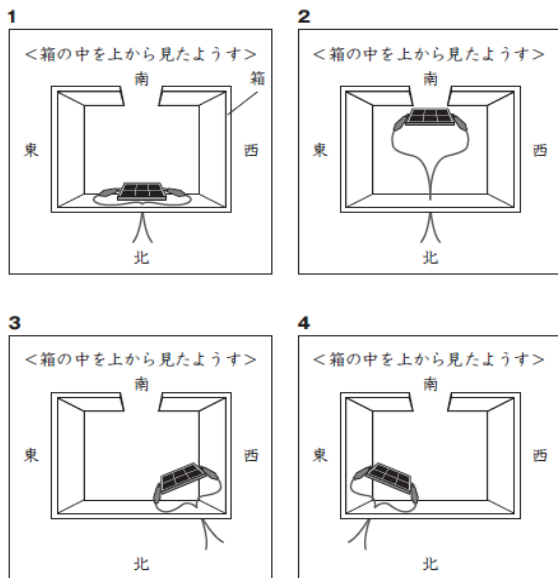
光電池の置き方を工夫して、午後1時ごろから午後3時ごろだけプロペラが回るようにできないかな。

そこで、ひろしさんたちは、光電池を下のような切れこみの入った箱の中に入れて、日光のあたり方を調整することにしました。



正午だと箱の中に、このように日光が差しこみ、日光があたっているところとあたらないところができるね。

(4) 午後1時ごろから午後3時ごろだけプロペラが回るようにするには、箱の中で光電池をどのように置けばよいと考えられますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



正答 4

★学習指導にあたって★  
 「既習の内容や生活経験を実際の自然や日常生活などに適用する力の育成」

本問題は、水槽の中の水を冷やすための扇風機を対象として、目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の一日の位置の変化に合わせた切れ込みのある箱の中での光電池の適切な位置や向きを問うものである。

このようなものづくりの活動においては、目的を設定し、児童が実際につくったものが目的にあったものであるかを振り返り、修正する活動を保障することが大切である。

本市での誤答は2が最も多かった。(27.3%)問題に提示されている午後1時から午後3時だけという条件を実験内容に適用できていないことがわかる。

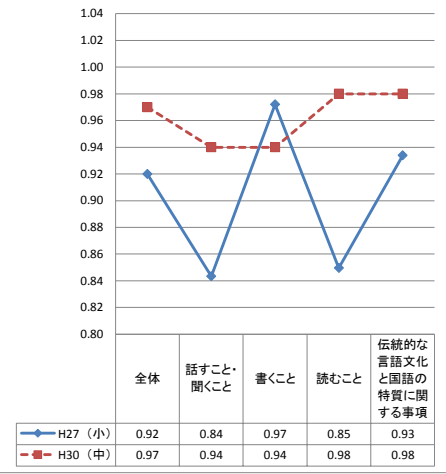
正答率については、本市が35.6%、大阪府が38.1%、全国が41.9%であった。

# 中学校国語A(知識に関する問題)

## 問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		
			柏原市	大阪府	全国
全体		32	74	75	76.1
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.4	72.3	75.2
	書くこと	4	69.8	72.2	73.9
	読むこと	4	75.2	76.1	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	75.3	75.2	76.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	—	—	—	—
	話す・聞く能力	3	70.4	72.3	75.2
	書く能力	4	69.8	72.2	73.9
	読む能力	4	75.2	76.1	76.7
問題形式	言語についての知識・理解・技能	21	75.3	75.2	76.5
	選択式	21	74.4	75.2	76.8
	短答式	11	73.6	73.8	74.7
	記述式	—	—	—	—

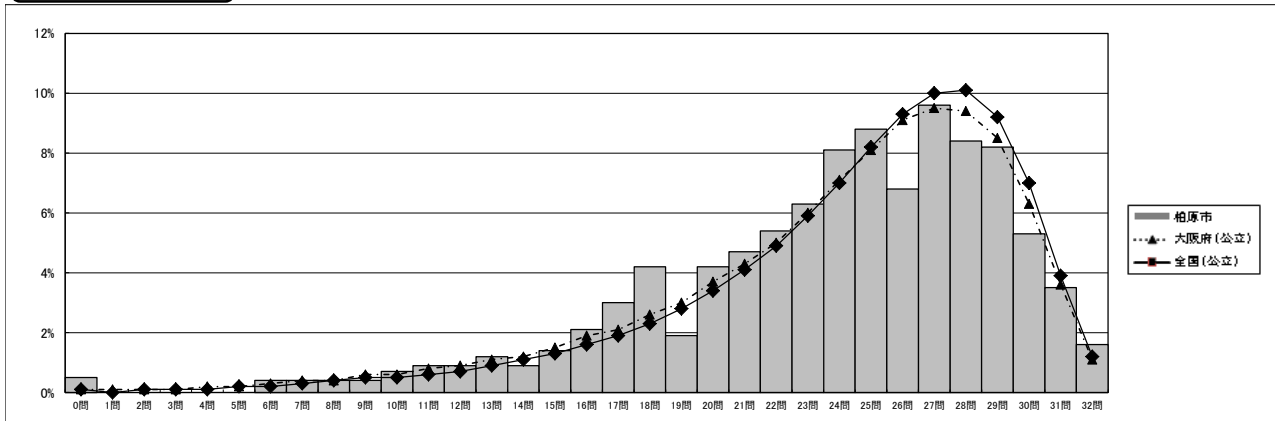
【全国比】同一児童生徒集団経年比較(H27-H30)



- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域においては、全国を下回っているものの、大阪府を上回った。
- ▼平均正答率は、全国・大阪府ともに下回る結果となった。
- ▼「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の領域では、それぞれ全国と4%以上の差があり課題が見える。
- ▼同一児童生徒集団での経年比較では向上が見られるが、「書くこと」に関しては依然として課題が残る。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 正答数分布



良好な領域	課題のある領域
該当なし	書くこと

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

全国・大阪府と比較した際に、26問以上の正答数が下回っている傾向にあり、上位層が少ないことがわかる。中間層に関しては概ね全国・大阪府を上回っている傾向にある。

中学校国語A問題で課題の見られた設問

四 次の各問いに答えなさい。

1 次の言葉の意味として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

心を打たれる

- 1 遠慮する。
- 2 感動する。
- 3 一つのこと集中する。
- 4 あれこれと心配する。

2 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰のようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。

解答例

私はスポーツ選手の努力する姿に心を打たれた。

★学習指導にあたって★

「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えながら適切な文を書く力の育成」

この項目においては、正答の条件として以下が示されている。

- ① 「心を打たれた」の正しい意味を理解して書いている。
- ② 「心を打たれた」の主語を明確にして書いている。
- ③ 「誰(何)」のことに「心を打たれた」のかがわかるように書いている。
- ④ 「どのようなこと」に「心を打たれた」のかがわかるように書いている。
- ⑤ 一文で書いている。

本市においては、【①、③、④、⑤を満たし、②を満たさないで解答】という誤答が最も多く、主語を明確にして書くことに課題がある。

正答率については、本市が19.4%、大阪府が24.4%、全国が22.3%であった。

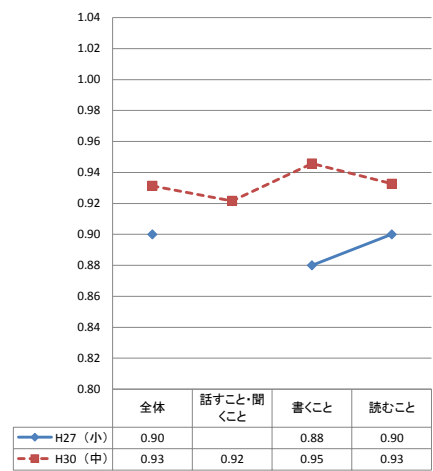


# 中学校国語B(知識に関する問題)

## 問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		
			柏原市	大阪府	全国
全体		9	57	59	61.2
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.6	74.0	76.6
	書くこと	2	29.6	30.0	31.3
	読むこと	6	49.9	52.0	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	47.7	47.4	49.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	48.0	48.9	50.3
	話す・聞く能力	3	70.6	74.0	76.6
	書く能力	2	29.6	30.0	31.3
	読む能力	6	49.9	52.0	53.5
	言語についての知識・理解・技能	1	47.7	47.4	49.2
問題形式	選択式	6	61.2	64.6	66.7
	短答式	0	-	-	-
	記述式	3	48.0	48.9	50.3

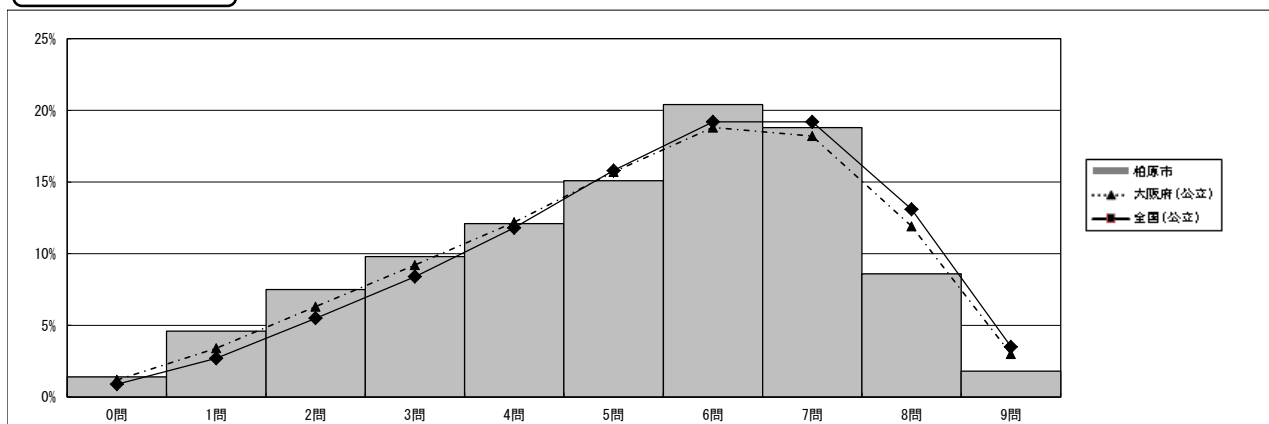
【全国比】同一児童生徒集団経年比較(H27-H30)



- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、A調査と同様に、大阪府を上回る結果となった。
- 同一児童生徒集団での経年比較では、「話すこと・聞くこと」を除く2つの領域において、小学校時よりも上回った。
- ▼国語A調査同様、全国・大阪府を下回る傾向にある。
- ▼「話すこと・聞くこと」の領域では全国と6%の差、「読むこと」の領域では全国と3.6%の差があった。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 正答数分布



良好な領域	課題のある領域
該当なし	話すこと・聞くこと 読むこと

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

全体的に見て、低位層が多く、上位層が少ない結果となった。  
また、4問までしか正解していない生徒の割合は、全国・大阪府を下回り、5問正解している生徒の割合は全国・大阪府を下回るなど課題が多く見られた。

中学校国語B問題で課題の見られた設問

人とコミュニケーションをとるロボットが、どのような会話をするのか詳しく聞きたいな。

南さん

これから「ロボットに期待すること」について発表します。こちらの資料の①を見てください。私は、人とコミュニケーションをとることができる人型や動物型のロボットについて調べました。皆さんはこのようなロボットを見たことがありますか。それぞれのロボットによってできることは少しずつ違います。②にまとめてみたが、特に私が注目したのは、人と触れ合うことで、一人一人の顔を見えたり、接する相手に合わせて動いたりするロボットがあることです。ロボットも人間と同じように学習するということが驚きました。私は、このような人とコミュニケーションをとることができるロボットを祖母に贈りたくなりました。遠くに住んでいてなかなか会うことができない一人暮らしの祖母の生活に役立つと考えたからです。ここまでで何か質問はありますか。

人とコミュニケーションをとるロボットが、どのような会話をするのか知りたいのですが、具体的な会話の例を教えてくださいませんか。

南さん 大野さん

山川さんは、一人暮らしのおばあさんの生活にロボットがどのように役立つと考えているのですか。



山川さん

【発表の直前の場面】

【発表・質問の場面の一部】

### ロボットに期待すること

1 人とコミュニケーションをとるロボットの例

人型のロボット	動物型のロボット
	

2 ロボットができることの例

- 人の言葉や行動を認識して反応する。
  - ・ 簡単な日常会話をする。
  - ・ ニュースや天気予報を伝える。
- 人と触れ合うことで学習する。
  - ・ 一人一人の顔を見える。
  - ・ 接する相手に合わせて動く。

3 これからの社会とロボット

- ・ 65歳以上の人口の割合は、2060年には日本の総人口の約4割になる見込み。
- ・ 総務省のアンケート調査では、60代以上の54.5%が、人とコミュニケーションをとるロボットを「利用したい」、「利用を検討してもよい」と回答。  
(総務省ウェブサイトによる。)

【資料】

2 山川さんは、総合的な学習の時間には、ロボットについて発表しています。次は、山川さんが発表のために作成した「資料」で「発表の直前の場面」と、それに続く「発表・質問の場面の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。(「発表の直前の場面」の中は、頭の中を歩いている「心」を表現しています。)

- 三 山川さんは、最後にロボットに期待することを述べて発表をまとめます。山川さんの話の進め方として最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。
- 1 これまで話してきた内容や聞き手とのやりとりを踏まえた上で、「資料」の中の②の情報を取り上げながら発表をまとめます。
  - 2 聞き手とのやりとりを進めて生まれた新たな考えをもとに、「資料」の中の①と②の情報を使って発表をまとめます。
  - 3 これまで話してきた内容や聞き手とのやりとりは踏まえずに、「資料」の中の②の情報を使って発表をまとめます。
  - 4 聞き手とのやりとりの内容を受けて話の方向を転換し、「資料」の中の②の情報を触れずに発表をまとめます。

1 正答

★学習指導にあたって★  
「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す力の育成」

伝えたいことを聞き手にわかりやすく伝えるためには、表現を工夫したり、相手の反応を踏まえながら話したりすること、また相手の話を聞きながら自分の考えを整理するためには、必要に応じて質問し、相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出すことが大切である。

本問では、総合的な学習の時間における学習で、ロボットについて調べたことや考えたことの発表場面が設定されている。話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問したり、聞き手とのやりとりを踏まえながら、話の全体として伝えたいことを明確にして話したりすることが求められている。

発表の目的に応じ、全体と部分との関係に注意することに課題があり、聞き手に伝えたいことは何なのかを常に意識して発表の活動を指導する必要がある。また、無回答率は、全国・大阪府と比較して約2%～4%高かった。

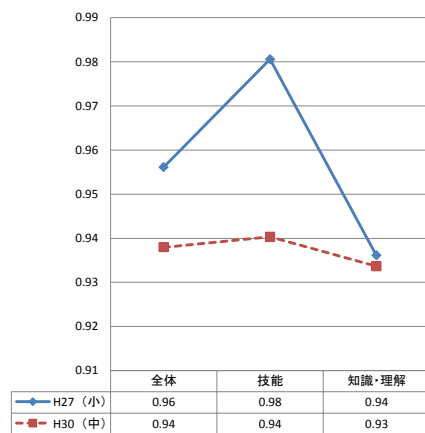
正答率については、本市が19.4%、大阪府が24.4%、全国が22.3%であった。

# 中学校数学A(知識に関する問題)

## 問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		
			柏原市	大阪府	全国
全体		36	62	65	66.1
学習指導要領の領域	数と式	12	68.7	70.1	71.1
	図形	12	62.9	67.8	69.1
	関数	8	53.1	55.7	55.5
	資料の活用	4	55.7	61.6	63.5
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	-	-	-	-
	数学的な見方や考え方	-	-	-	-
	数学的な技能	14	66.2	69.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	22	59.1	62.4	63.3
問題形式	選択式	18	56.4	60.6	61.5
	短答式	18	67.3	69.8	70.7
	記述式	-	-	-	-

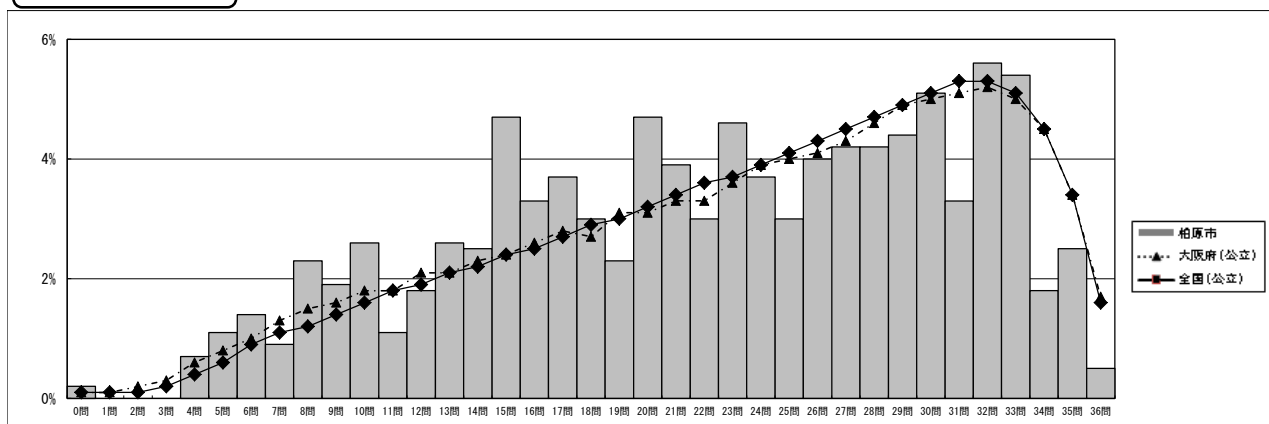
【全国比】同一児童生徒集団経年比較(H27-H30)



▼全ての項目において、全国・大阪府を下回る結果となった。  
▼同一児童生徒集団での経年比較では、「平均正答率」及び2つの観点において、小学校時と比較した際に乖離が見られた。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 正答数分布



良好な領域	課題のある領域
該当なし	図形 関数 資料の活用

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

低位層から中間層にかけて、全国・大阪府より多く、上位層においては特に34問以上の正答数が全国・大阪府を大きく下回る結果となった。

中学校数学A問題で課題の見られた設問

15 次の(1)，(2)の各問いに答えなさい。

(1) 表と裏の出方が同様に確からしい硬貨があります。この硬貨を投げる実験を多数回くり返し、表の出る相対度数を調べます。このとき、相対度数の変化のようすについて、下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア 硬貨を投げる回数が増えるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は1に近づく。

イ 硬貨を投げる回数が増えるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は0.5に近づく。

ウ 硬貨を投げる回数が増えても、表の出る相対度数のばらつきはなく、その値は0.5で一定である。

エ 硬貨を投げる回数が増えても、表の出る相対度数の値は大きくなったり小さくなったりして、一定の値には近づかない。

正答 イ

★学習指導にあたって★

「『ある試行を多数回繰り返したとき、全体の試行回数に対するある事象の起こる回数の割合は、ある一定の値に近づく』ことへの理解力の育成」

本問は、平成25年度【中学校】数学A15(1)[全国:正答率33.4%]と同一の問題であり、上記について課題がみられたことから、その学習状況の変化を把握するために出題された問題である(本市:22.1%)。

本市での誤答はエと解答している生徒が最も多く、多数回の試行で相対度数の値が一定の値に近づくことが理解できていないことがわかり、平成25年度の同一問題でも同様の誤答が多かった。

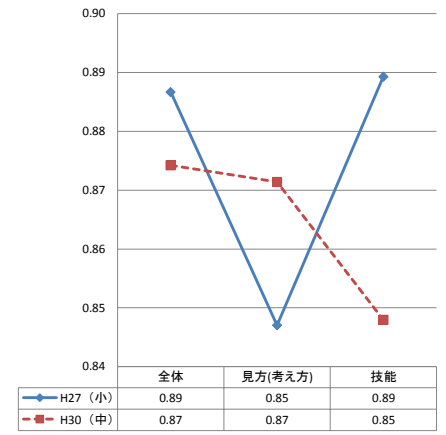
正答率については、本市が32.0%、大阪府が37.2%、全国が40.2%であった。

# 中学校数学B(活用に関する問題)

## 問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		
			柏原市	大阪府	全国
全体		14	41	46	46.9
学習指導要領の領域	数と式	4	48.3	51.0	51.4
	図形	3	38.1	46.0	46.7
	関数	3	47.8	50.9	52.8
	資料の活用	4	29.1	36.2	38.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	-	-	-	-
	数学的な見方や考え方	10	39.3	44.1	45.1
	数学的な技能	4	43.5	49.6	51.3
	数量や図形などについての知識・理解	-	-	-	-
問題形式	選択式	2	54.8	59.6	61.5
	短答式	7	49.1	54.7	56.2
	記述式	5	22.8	27.5	27.9

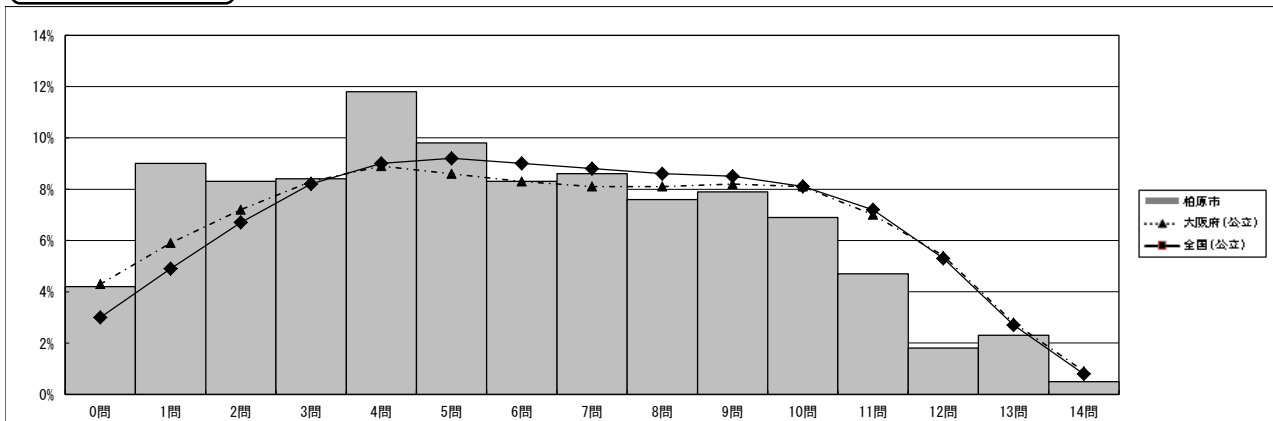
【全国比】同一児童生徒集団経年比較(H27-H30)



○同一児童生徒集団の経年比較では、「数学的な見方や考え方」においては、向上が見られた。  
 ▼A調査同様、B調査においても全ての項目で全国・大阪府を下回る結果となった。  
 ▼同一児童生徒集団の経年比較では、「全体」及び「数学的な技能(小学校では[数量や図形についての技能])」の観点において、中学校入学後も下降傾向にあった。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 正答数分布



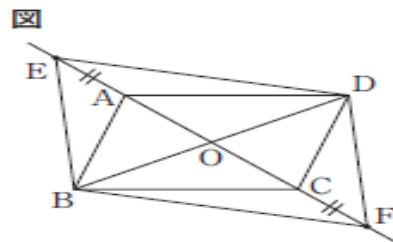
良好な領域	課題のある領域
該当なし	数と式 図形 関数 資料の活用

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

低位層が占める割合が最も多く、上位層が占める割合が少ない。また、課題のある領域では全ての領域が挙げられた。

中学校数学B問題で課題の見られた設問

(2) 右の図のように、平行四辺形ABCDの対角線の交点をOとし、線分OA, OCを延長した直線上にAE = CFとなる点E, Fをそれぞれとります。優花さんは、このときも四角形EBFDは平行四辺形になると予想しました。



図において四角形EBFDが平行四辺形になることは、前ページの優花さんの証明の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでの中から1つ選び、正しく書き直さない。

ア	平行四辺形の対角線はそれぞれの中点で交わるから、 $OB = OD$ .....① $OA = OC$ .....②
イ	仮定より、 $AE = CF$ .....③
ウ	②, ③より、 $OA - AE = OC - CF$ .....④
エ	④より、 $OE = OF$ .....⑤
オ	①, ⑤より、 対角線がそれぞれの中点で交わるから、 四角形EBFDは平行四辺形である。

正答 ウ ②, ③より、 $OA + AE = OC + CF$ ...④  
エ (他に正答「ウ」以外の) $OE = OF$ が成り立つ根拠を記述し、 $OE = OF$ を証明...⑤

★学習指導にあたって★  
「発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直す力の育成」

証明の学習では、証明を読み、振り返って新たにわかる事柄を考えると、さらに発展的に考えて証明することが大切である。

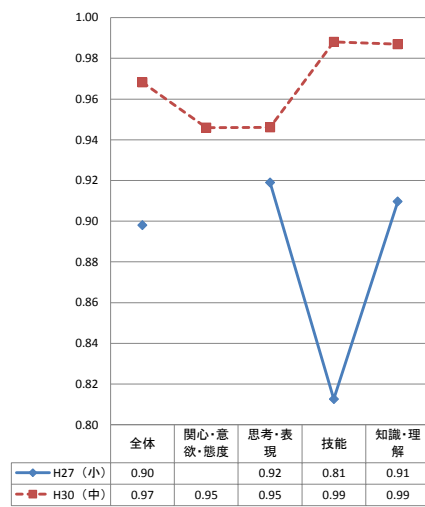
本問では、平行四辺形の性質を用いて、証明した事柄を基に、問題の図形において新たにわかることを指摘する状況が設定されている。さらに、証明を振り返り、平行四辺形の内側に2つの点を取ったときの証明を基に、平行四辺形の外側に2つの点を取ったときについての証明を完成する状況が設定されている。

本問における正答率は、柏原市で31.8%と全国・大阪府と比較した際に、10%以上の乖離があった。また、誤答としてはア・イ・オのいずれかを解答している生徒が多く、その割合も全国・大阪府と比較し約8%以上多い結果である。

問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			
			柏原市	大阪府	全国	
全体		27	64	64	66.1	
枠組み	主として「知識」に関する問題	11	67.0	67.0	67.9	
	主として「活用」に関する問題	16	61.0	62.0	64.9	
学習指導要領の領域	第1分野	物理的領域	7	71.3	72.4	74.4
		化学的領域	8	63.2	62.8	65.0
	第2分野	生物的領域	6	71.2	70.1	72.5
		地学的領域	7	54.8	55.9	57.8
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度		1	70.0	71.2	74.0
	科学的な思考・表現		16	61.4	62.2	64.9
	観察・実験の技能		4	66.2	64.7	67.0
	自然事象についての知識・理解		8	67.8	67.6	68.7
問題形式	選択式		17	69.7	69.1	70.9
	短答式		4	68.3	69.2	70.2
	記述式		6	44.1	46.1	50.1

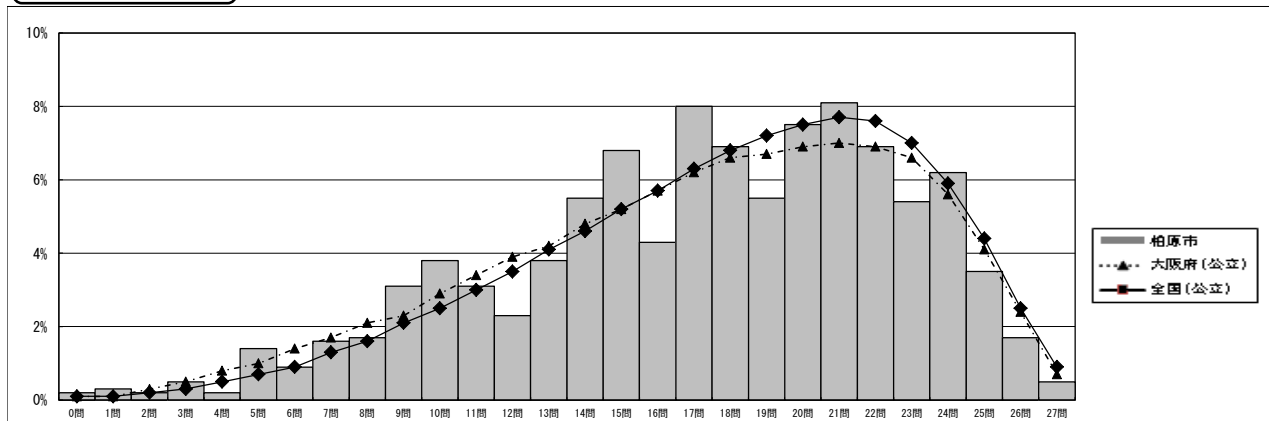
【全国比】同一児童生徒集団経年比較(H27-H30)



- 全国の前年正答率は下回ったものの、大阪府とは同値となった。
- 上回った領域としては、第1分野の「化学的領域」と第2分野の「生物的領域」であった。
- 同一児童生徒集団の経年比較では、全ての観点において、小学校6年次を上回る結果となった。
- 特に「観察・実験の技能」及び「自然事象についての知識・理解」の観点においては、ほぼ全国水準まで向上した。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

正答数分布



良好な領域	課題のある領域
該当なし	該当なし

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

柏原市・全国・大阪府ともに21問正解の生徒の割合が最も多かった。上位層では、全国・大阪府の方が割合は多かった。



中学校理科問題で課題の見られた設問

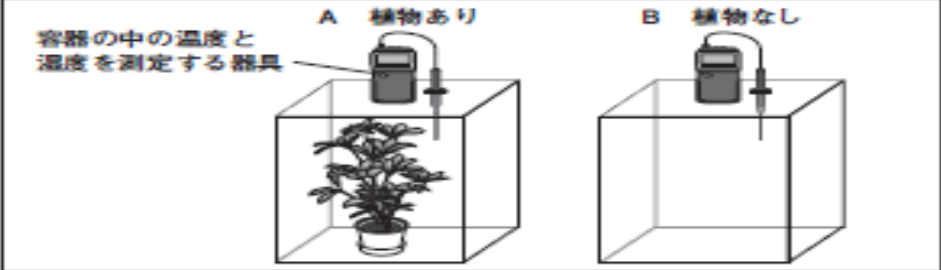
- 9 健一さんは、乾燥した部屋に鉢植えの植物を置くと湿度が上がって、インフルエンザの子防に効果があると知り、科学的に探究して実験ノートにまとめました。  
 (1)と(2)の各問いに答えなさい。

**実験ノートの一部**

2月11日(日) 天気 曇り 気温 22℃

**【観察】**  
 密閉した透明な容器の中に鉢植えの植物を置くと、湿度は上がるのだろうか。

**【実験】**



**【結果】**  
 AとBの容器の中の温度は22℃で変わらなかった。

時間(時間)		0	1	2	3	4
湿度 (%)	A 植物あり	37	67	87	88	88
	B 植物なし	38	39	39	38	38

**【考察】**  
 実験の結果から、鉢植えの植物を入れた容器の中の湿度は上がるといえる。

**【新たな疑問】**  
 水蒸気が植物から出るだけで、湿度が37%から88%に上がるのだろうか。

- (1) 下線部の植物の働きを何といいますか。下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア 光合成    イ 呼吸    ウ 気孔    エ 蒸散

- (2) 健一さんは【新たな疑問】をもち、下線部以外の原因を考えました。考えられる原因を1つ書きなさい。

解答例 土から蒸発して水蒸気になったから。

★学習指導にあたって★

「蒸発と湿度に関する知識と、問題解決の知識・技能を活用して、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘することができる力の育成」

新たな実験を計画する際には、前の実験の結果を方法も含めて分析し、原因として考えられることを挙げ、それらの妥当性を検討することが大切である。

本問では、乾燥した部屋の湿度を上げるとインフルエンザの予防に効果があることを知り、植物を部屋に置いて湿度を上げる方法に興味をもち、植物によって加湿できるかどうかを科学的に探究する学習場面が設定されている。

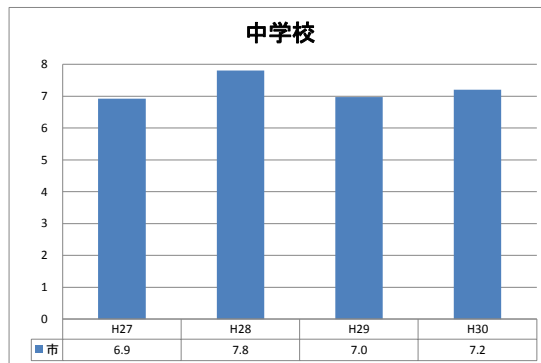
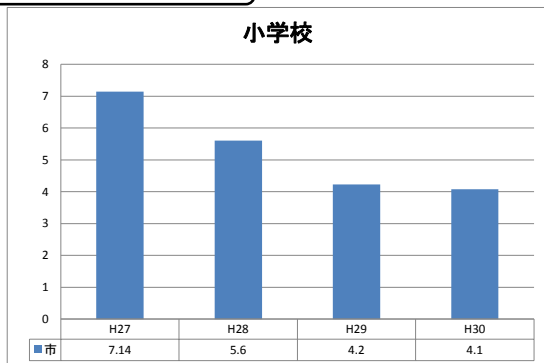
誤答として最も多かったのは、容器の中の湿度について記述しているが、水蒸気が発生する場所とその仕組みについて記述しておらず、湿度が高くなる原因として考えられる要因を見出すことに課題があると考えられる。

正答率：柏原市[13.5%]、大阪府[16.3%]、全国[19.4%]、



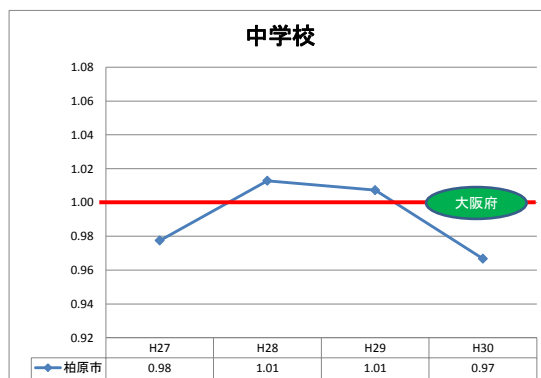
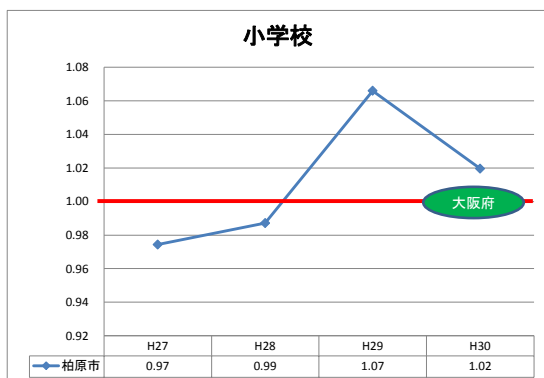
# 「書く力の育成」(H28～H30)を重点項目とした3年間の検証

## 無回答率の推移



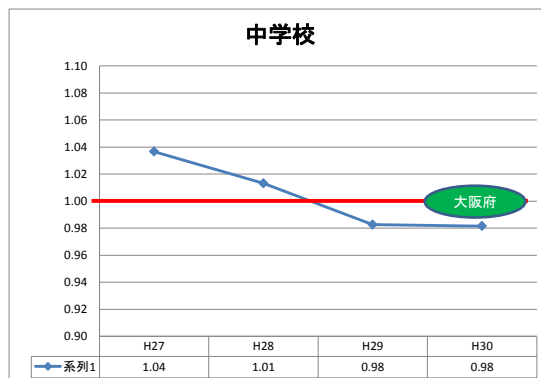
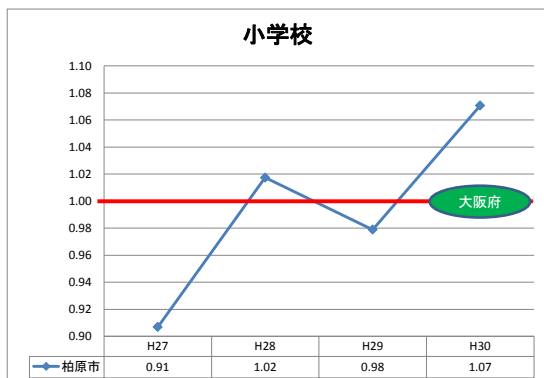
「書く力の育成」を重点項目に取組み始める前年度の平成27年度と、取組みをした3年間との経年比較である。小学校では、「書くこと」に対する抵抗感の減少や、最後まで問題を解こうとする意欲の向上等、取組みの成果が表れた。一方、中学校では、重点項目として掲げた平成28年度からの3年間で見ると、平成29年度に減少したものの、開始前の平成27年度を下回ることにはなかった。

## 「書くこと」の領域における正答率(大阪府比)の推移



平成28年度より、「書く力」を市のテーマと位置付け3年目を迎えたグラフである。小学校については、昨年度より大阪府を上回る結果となり成果が出ている。中学校については、平成28年度及び平成29年度ともに大阪府を上回る結果となり、成果が出たと思われたが、今年度については平成27年度よりも更に下回る結果となった。

## 「記述式」問題における正答率(大阪府比)の推移

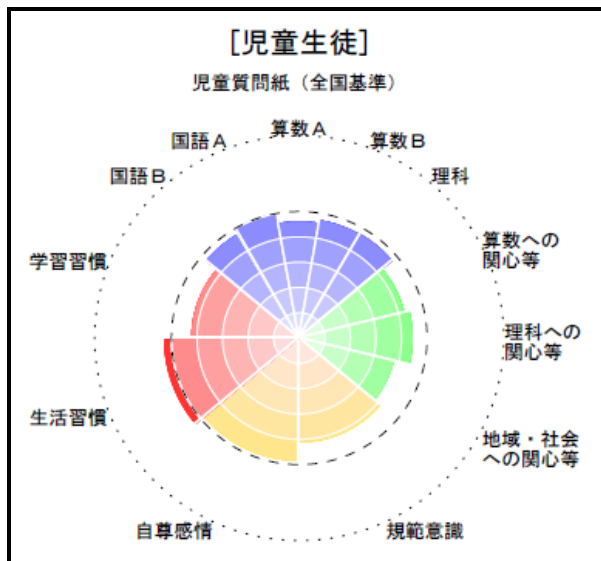


小学校・中学校ともに、「自分の考えを書く」出題については大阪府を上回り、「書く力」の育成に対する成果が出ていると思われる。中学校では、「相手に伝わるように、あらすじを捉えて書くこと」に課題がある。

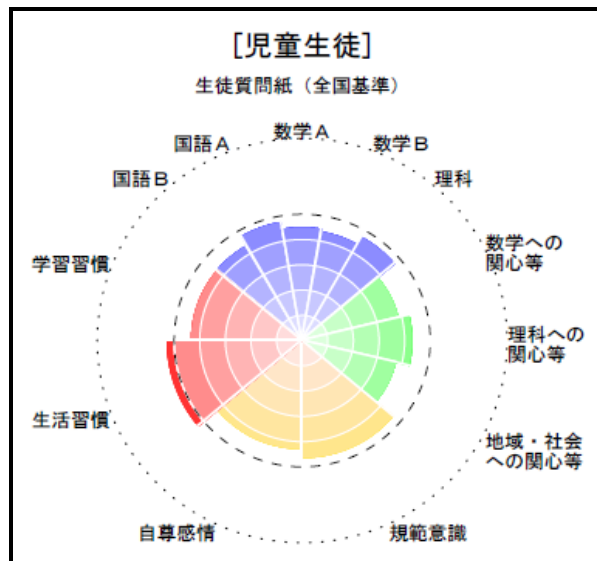
## 質問紙調査のクロス分析(文部科学省報告書より)

※全国平均は破線部分、柏原市平均は色つき部分

[小 学 校]



[中 学 校]



☆下記のように回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

### ①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- ・前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う。
- ・前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。

### ②規範意識、自己有用感等

- ・自分には、よいところがあると思う。
- ・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。
- ・学校のきまり[規則]を守っている。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。

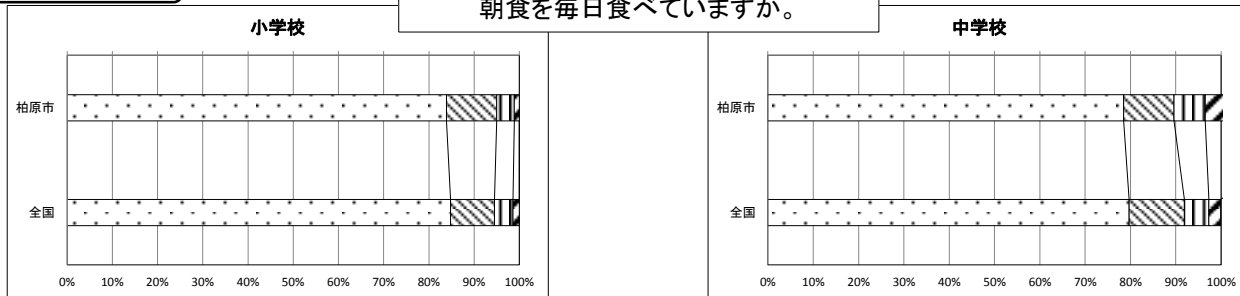
### ③地域や社会に関する調査関連

- ・前学年までに受けた授業や課外授業で地域のことを調べたり地域の人と関わったりする機会があったと思う。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。
- ・新聞を読んでいる。
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。(携帯電話やスマートフォンを使う場合も含む。)

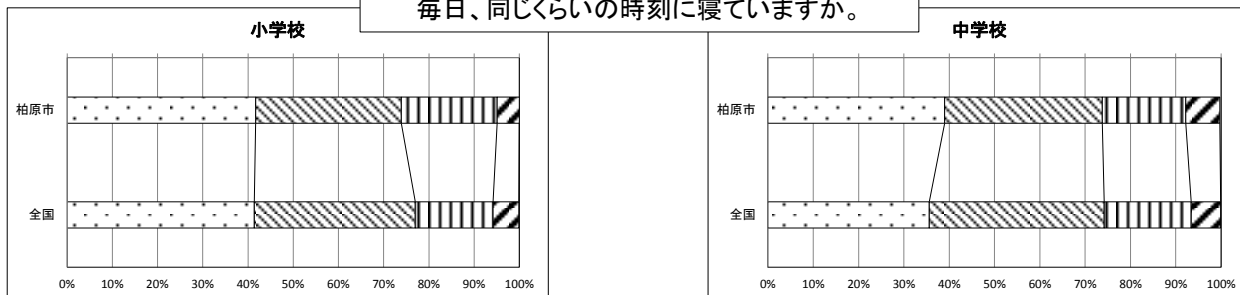
※特記事項を除き、横棒グラフの左から「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまらない」、「あてはまらない」と表記している。

生活習慣

朝食を毎日食べていますか。

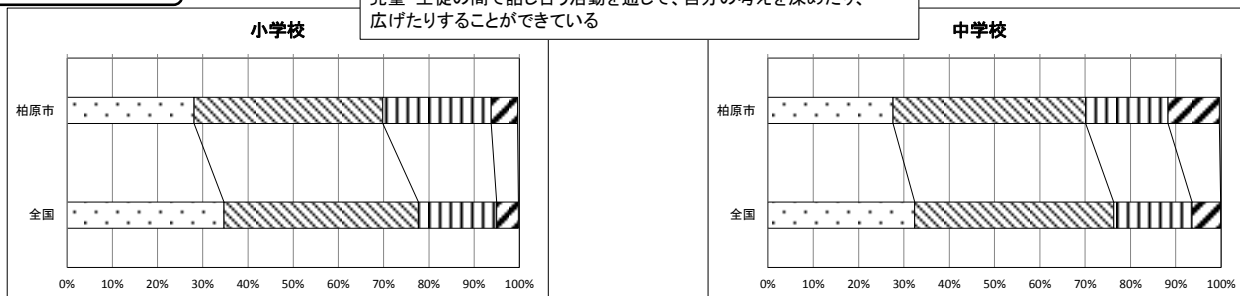


毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



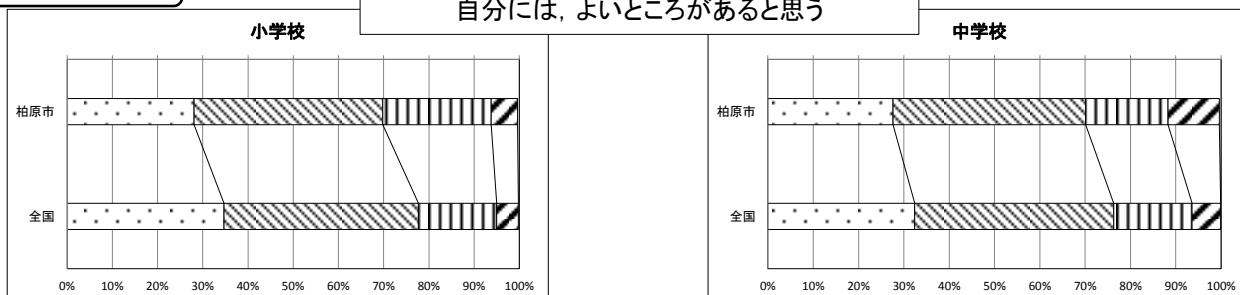
授業づくり

児童・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる

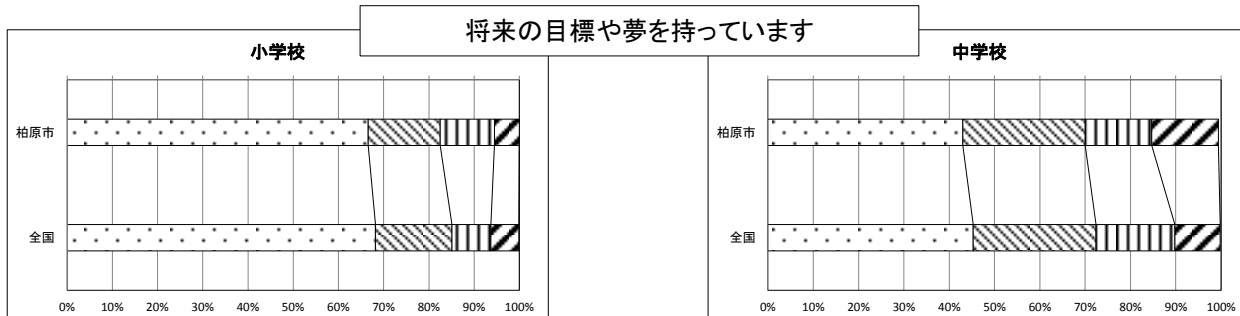


自尊感情

自分には、よいところがあると思う

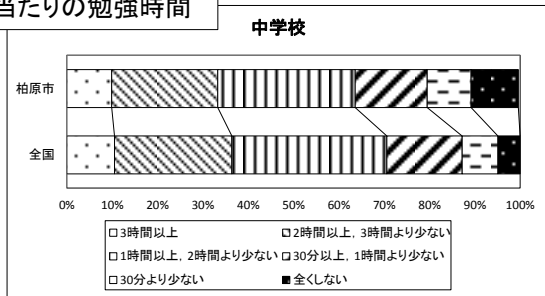
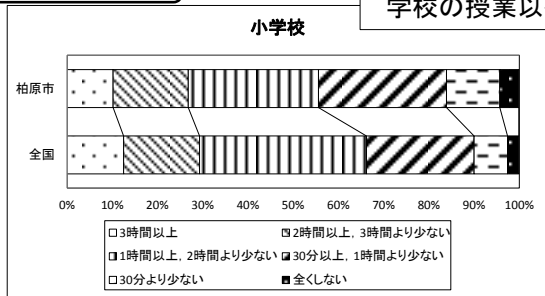


将来の目標や夢を持っています



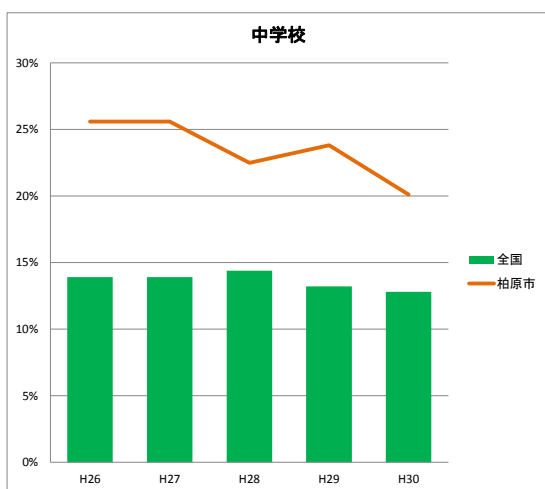
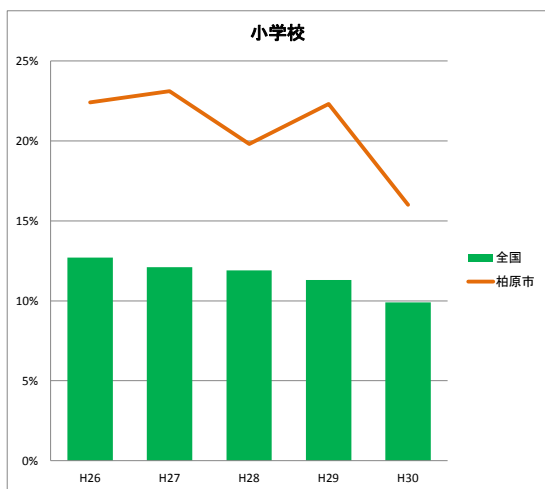
学習習慣

学校の授業以外の平日1日当たりの勉強時間



学習習慣（H26年度～H30年度）

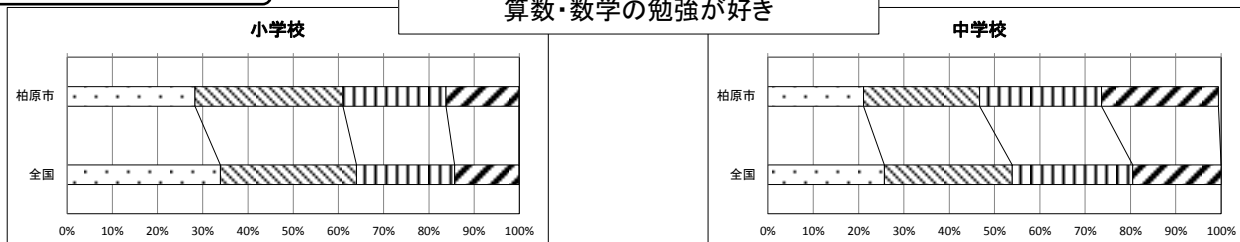
学校の授業以外の平日1日当たりの勉強時間「30分より少ない」または「全くしない」児童・生徒の割合



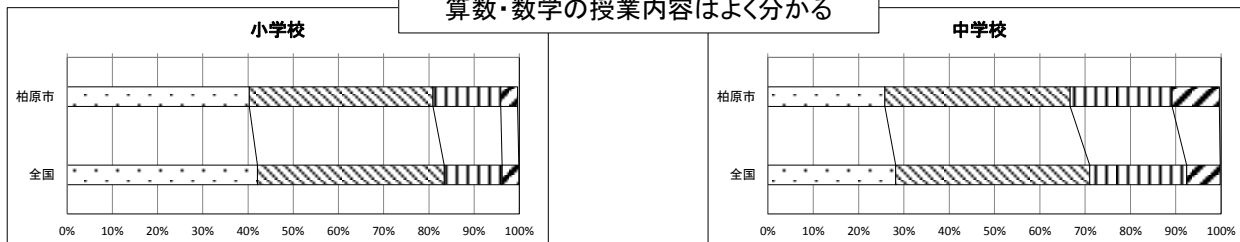
※特記事項を除き、横棒グラフの左から「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまらない」、「あてはまらない」と表記している。

**学習(算数・数学)**

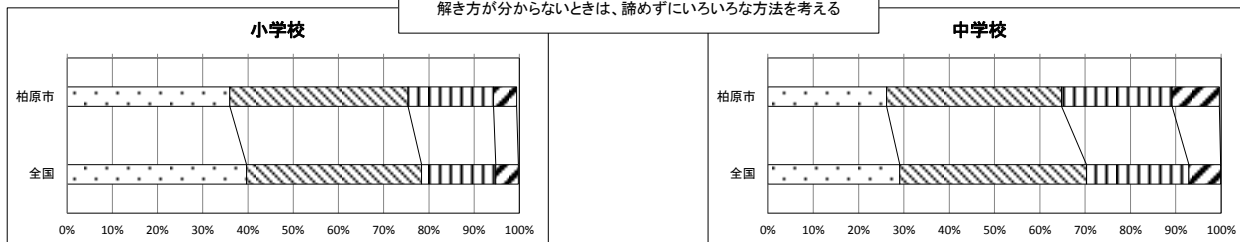
**算数・数学の勉強が好き**



**算数・数学の授業内容はよく分かる**

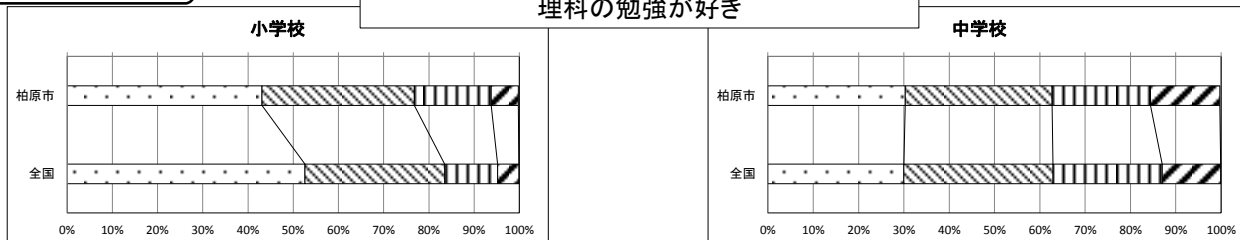


**解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える**

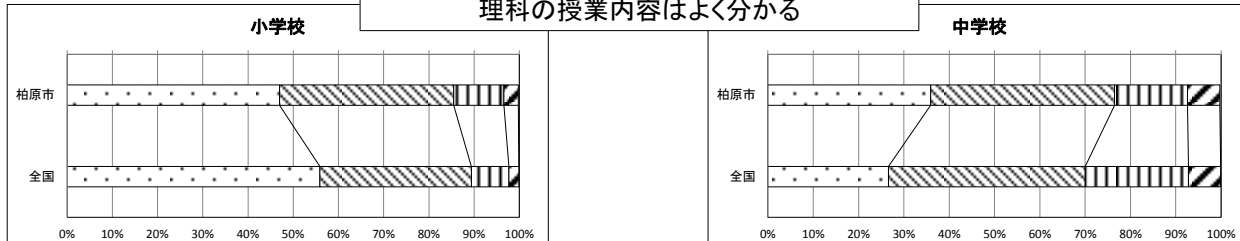


**学習(理科)**

**理科の勉強が好き**



**理科の授業内容はよく分かる**

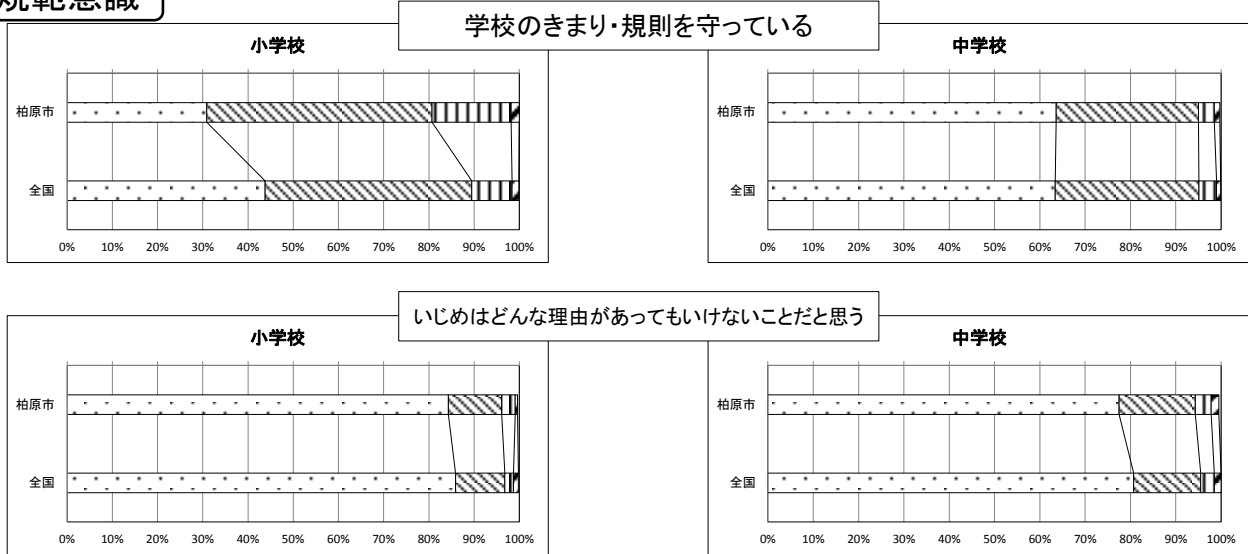


**自分の考えや(考察を)まわりの人に説明したり発表したりする**

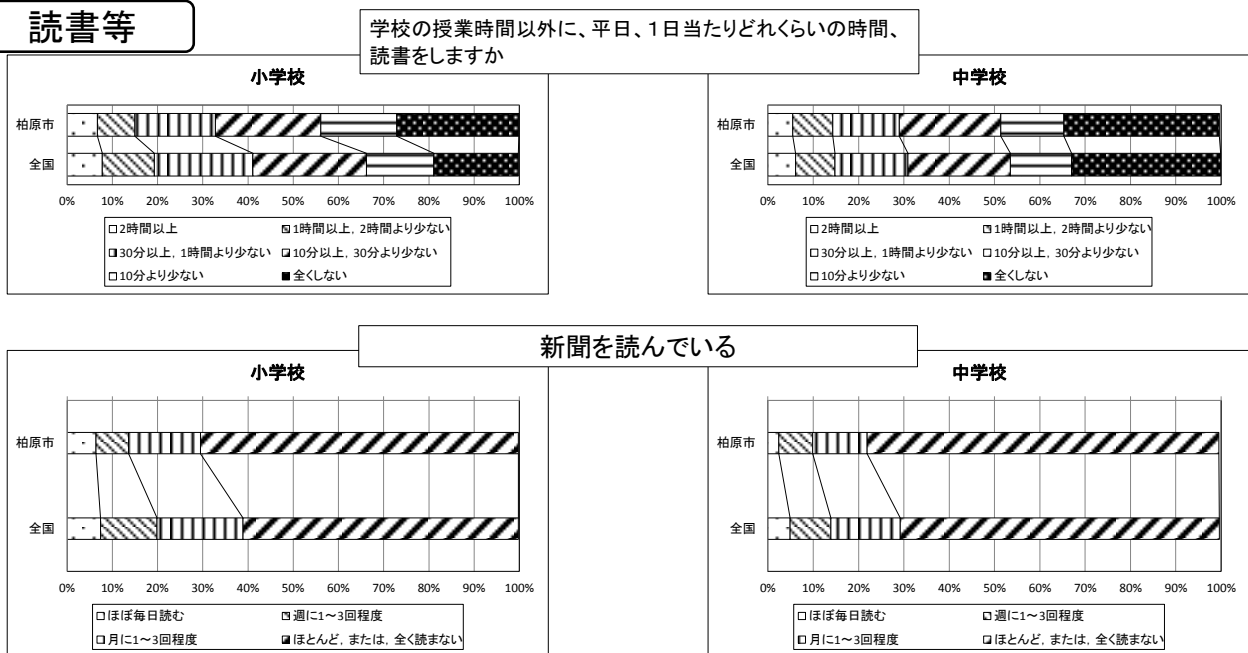


※特記事項を除き、横棒グラフの左から「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまらない」、「あてはまらない」と表記している。

規範意識



読書等



○「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と回答している児童・生徒の割合は、全国と比較して低くないため、基本的な生活習慣は確立していると考えられる。

○学校の授業以外での勉強時間が30分より少ないまたは学校の授業以外で勉強を全くしない児童・生徒の比率が全国より高く、学習習慣が確立していないと考えられる。ただし、過去5年間を比較すると、学校の授業以外での勉強時間が30分より少ないまたは全くしない児童生徒の比率は減少していて改善傾向が見られる。

○中学校では「理科の授業内容はよく分かる」という質問に肯定的回答をした生徒の割合が全国を上回っており、中学校理科の正答率が比較的高かったことと正の相関関係があると考えられる。

▼「自分にはよいところがある」と回答した割合は、小学校では全国が約78%に対して柏原市は約70%、中学校では全国が約76%に対して柏原市は約70%と低かったが、同一児童生徒の経年比較で見ると伸びており、自尊感情が徐々に育てられているのがわかる。

▼文部科学省が公表した2017年度の調査のクロス集計結果によると、新聞読書習慣と学力との間に相関関係があり、新聞を頻繁に読む児童生徒ほど、正答率が高いことがわかっている。  
「新聞をほとんどまたは全く読まない」と回答した児童は、全国で60.9%に対して柏原市では70.3%、生徒は全国で70.4%に対して柏原市では77.6%と、新聞を読まないと回答した割合が高かった。

## ○これまでの柏原市及び教育委員会の教育計画

平成23年 「第4次柏原市総合計画」策定  
平成26年 「柏原市教育振興基本計画」策定  
平成28年 「かしわらっ子はぐくみプラン(第1期柏原市学力向上3ヵ年計画)策定  
平成29年 「柏原市教育振興基本計画(改訂版)」策定

上記の「柏原市教育振興基本計画(改訂版)」と「かしわらっ子はぐくみプラン(第1期柏原市学力向上3ヵ年計画)」において、その成果指標として、「平成30年に平均正答率と正答率40%以下及び80%以上を全国並みにする」としました。

## ○これまでの教育委員会としての取組み

「かしわらっ子はぐくみプラン」では、平成29年度より「すべての子どもたちに豊かな学力を！！ ～学校・家庭・地域が連携した取組みの推進～」を目標に、10の取組みから4つを重点目標(4つの柱)として進めてきました。

### (1) 取組み①「系統性のある学び(幼小中一貫教育)の推進」

- ・平成32年度からの英語の小学校での教科化に向けて、幼小中一貫教育推進教員の内5名を「英語教育推進教員」と位置付け、小学校教員へ指導方法の伝達や、校内での支援の充実を図る
- ・幼小中一貫教育推進コーディネーター連絡会議を立ち上げ、定期的に各校区の実践の交流や情報交換を行う

### (2) 取組み④「確かな学力の育成を図る授業づくり」

- ・年間を通して充実した教員研修(教科研修、夏季研修、フレッシュ研修、支援教育研修、生徒指導研修、道徳教育研修等)を実施する
- ・学力向上推進委員会を中心に、研究授業や学識による講義等から「書く力」を育成するための指導方法や教材の研究を進める
- ・平成28年度より「かしわらっ子はぐくみテスト」を実施し、その結果の分析をとおして、これまでの指導を振り返り、より「わかりやすい授業」をめざし授業改善に活かす
- ・学校司書を市費で配置し、学校図書館の環境整備を整え、学校図書館を活用した授業や読書指導に関する研修の充実を図る

(3) 取組み⑤「学びの時間の保障(個に応じた指導の充実)」

- ・専門的な技術・指導力のある民間教育産業の人材を、学力向上推進講師として中学校に派遣し、放課後等に学習会を実施し、学力の向上を図る
- ・府の加配や幼小中一貫教育推進教員等を活用し、少人数指導やチームティーチング(TT)指導により、個の状況やニーズに応じた授業展開をする
- ・小学校において、平日の放課後に学生ボランティアのサポートによる学習会「スタディ・アフター・スクール(SAS)」を実施し、児童の学習習慣とコミュニケーション能力の育成を図る
- ・教育に熱意を持つ学生を学校教育支援指導員として各校園に派遣し、授業での入り込みや放課後の学習等で子どもたちの学習を支援する

(4) 取組み⑦「家庭との連携・協力による子どもの家庭学習習慣の定着」

- ・学校専用開発された教材配信システムを導入することにより、授業と連携した多様なプリントを容易に作成することを可能にし、宿題をはじめとする家庭学習の定着と子どもたちの自学自習力の向上を図る
- ・幼小中一貫教育推進コーディネーター連絡会議において、「家庭学習の手引き」等、校区での家庭学習定着のための取組みについて交流する

○本年度の結果

①平均正答率(全国を1.00として)

	項目	H26	H27	H28	H29	H30	目標値
小学校	国語Aの平均正答率	0.94	0.92	0.96	0.98	0.99	1.00
	国語Bの平均正答率	0.93	0.90	0.96	0.92	0.97	1.00
	算数Aの平均正答率	0.98	0.96	0.96	0.99	0.99	1.00
	算数Bの平均正答率	0.96	0.89	0.93	0.96	0.99	1.00
中学校	国語Aの平均正答率	0.98	0.98	0.97	0.97	0.97	1.00
	国語Bの平均正答率	0.95	0.99	0.96	0.94	0.93	1.00
	数学Aの平均正答率	0.93	0.94	0.97	0.98	0.94	1.00
	数学Bの平均正答率	0.96	0.92	0.94	0.94	0.87	1.00

※理科は3年ごとの調査なのでデータから省いています

【評価】

小学校では目標値まであとわずかに迫っているが、中学校はまだ全国とは開きがある。正答率40%以下の割合においては小学校算数B、80%以上の割合は小学校国語Aと中学校国語Aが目標値を達成した。



## ○教育委員会としての今後の取組み

- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする
- ・引き続き「書く力の育成」をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・スマートフォンやSNSについて安全な使い方やリスクを学べる研修を実施する

## ○学校における今後の取組み

- ・教員全員が指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる
- ・教科横断的に「書く」機会を多く設け、組織的に「書く活動」の充実を図る
- ・道徳教育や人権教育を中心に、自他ともに大切にし、思いやりや優しさが育まれる心の教育を充実させる
- ・各校区で幼小中の教員や子どもたちの交流を充実させ、11年間の連続した視点での指導を確立させる

## ○家庭にお願いすること

### ① 基本的な生活習慣の定着

- ・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくる
- ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
- ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる

### ② 家庭学習習慣の定着

- ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める  
※中学第1学年生徒は、7年生とする
- ・毎日の宿題ができているかを確認する

### ③ スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り

- ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める
- ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する